

～「仙北市」として本格的なスタートの年～

各地区の特色を活かし、新市の一体感の醸成と市民の融和を！

仙北市長 石黒直次

政策の基本方針

◇総合計画の策定

新しい総合計画を、9月を目途に策定し、今後の進むべき方向を総合的かつ具体的に提示します。

計画の策定には、市議会との協議、地域審議会や各種団体の皆さまの意見を伺うとともに、地域アンケートの実施などにより広く市民の声を反映させたものにしたと考え、市民の視点に立ったわかりやすい計画づくりを目指します。

◇特色を活かした市政の推進

豊富な観光資源、歴史的な文化遺産、恵まれた自然景観等、それぞれの地域の特色を活かしたまちづくりを進めるとともに、他産業との有機的な連携をはかり、相乗効果が期待される方策を進めます。

◇市民の参加と協働のまちづくり

地方分権社会の進展の中、これからの自治体運営は、行政主導から住民参加、NPOや民間団体との協力など、市民参加と協働の取り組みが欠かせません。

仙北市の発展には、あらゆる分野で市民の力を取り入れることが必要であり、そうした仕組みを検討し、行政の役割を明確にし、併せて市の課題を共有するための情報提供に努めます。

◇行政改革の推進

現在、庁内に行政改革プロジェクトチームを発足させ、現行の組織・機構、事務・事業の問題点や経常経費の節減対策について検討しています。新年度において、プロジェクトチームの提言を活かしつつ、真に合併効果が発揮できる体制を目指します。

新年度の重点事業と予算案の概要

平成18年度一般会計予算の歳入歳出総額は、183億8,800万円で、旧田沢湖町・旧西木村の当初予算と旧角館町の6月定例議会後の現計予算の合計額と比較し、総額で17億4,270万3千円の増額となっています。

歳出については、経常経費の徹底した削減を行い、継続の事務事業を優先しました。主な事業として国体会場施設整備事業費、抱返り溪谷歩道危険箇所防除事業負担金、地方道路臨時交付金事業費、角館統合小学校建設事業費等です。

新規事業については、秋田わか杉国体スキー競技会・カヌーリハーサル大会の開催経費、汚泥再生処理センターの基本計画・最終発注仕様書作成業務等です。

各部等の事業の概要

【総務部関係】

○総合計画の策定

基本方針でも述べたとおり、9月を目途に策定します。計画期間を平成18年度から27年度までの10年間とし、基本的には、合併協議により策定された「新市建設計画」の基本理念を継承しつつ、より発展的、具体的なまちづくりの指針として策定します。

○秋田内陸線

「秋田内陸線再生支援協議会」において、存続に向けた再生計画の策定作業を進め、平成22年度を目標に、乗車人員を約82万6,600人に設定し、経常損失額を他の交通機関に代えても必要とされる1億5,000万円以内に圧縮するという目標達成のため、関係機関との連携をはかり、乗車促進運動を展開していきます。

○市民バス

角館地区、田沢湖地区で運行している市民バスについて、利用料金が両地区で違っていることから、同じ利用料金となるようすり合わせを行ったところであり、なお一層の利用促進を図ります。